

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 4 月 26 日現在

機関番号：36102  
 研究種目：基盤研究(C) (一般)  
 研究期間：2011～2015  
 課題番号：23520849  
 研究課題名(和文) 中・近世における地方寺院の宗教活動の基礎的研究 尾道・西國寺所蔵聖教・典籍など  
  
 研究課題名(英文) The basic research of religious activity of the local temple in the medieval times and modern times -Around The Syougyou and book of the Buddhism by Saikokuji-temple of Onomichi City-  
  
 研究代表者  
 濱田 宣 (Hamada, Akira)  
  
 徳島文理大学・文学部・教授  
  
 研究者番号：20299332  
  
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、広島県尾道市・西國寺所蔵の聖教などの全貌を明らかにし、西國寺の歴史と文化の本格的な解明を行うことを目的とする。これまでの調査(通算16年間)において、17,738点の資料を確認し、次のとおり『西國寺調査研究報告書』を出版した。

第9号/2012：典籍1,243点、第10号/2013：典籍1,274点、第11号/2014：典籍1,293点、第12号/2015：聖教771点、第13号/2016：聖教915点のデータを掲載した。聖教は寺院において学問する活動の中で生まれたもので、日本史学において近年注目されており、また典籍は西國寺における修学活動の状況を明らかにできる貴重な資料である。

研究成果の概要(英文)： This research clears the whole affair of the Saikou-ji temple in Hiroshima Prefecture Onomichi City made Syougyous , and this study is intended that I perform full-scale elucidation of the history and the culture of the Saikou-ji temple. We confirmed 17,738 points of documents in the investigation (total 16 years) until now and published 『The Saikoku-ji temple investigation research report 』 as follows. Data on 1,243 points of Books appeared in No. 9 / 2012、 Data on 1,274 points of Books appeared in No.10 / 2013、 Data on 1,293 points of Books appeared in No. 11 / 2014、 Data on 771points of Syougyou appeared in No.12 / 2015、 Data on 915points of Syougyou appeared in No.13 / 2016 .

Syougyou are the precious materials being watched by the newborn thing in the activities to study at the temple with various learning Japanese history recently and Books are the precious materials which can do what clears the conditions of learning activities at the Saikoku-ji temple.

研究分野：仏教美術史

キーワード：仏教史学 聖教 典籍 寺院史 日本史 文化史 仏教

## 1. 研究開始当初の背景

広島県尾道市に所在する真言宗醍醐派摩尼山西國寺は、すでに平安時代中期に存在の知られる古刹である。古来、尾道が瀬戸内における海上交通の拠点として、また、山陽道の中央に位置することなどから、西國寺は領主階級や商工業者等から多くの尊崇を得てきた。

本寺には、永保2年(1082)に再興された際、讃岐善通寺の七仏薬師の一つであったものが伝来したという本尊の木造薬師如来坐像(重要文化財・平安時代初期作)など数点の寺宝を除いて、治暦2年(1066)、永和年間(1375~1378)の2度の大きな火災により、堂塔をはじめ諸什物が甚大なる損害を受けた。そのため、これ以前の寺歴を物語る資料は残念ながら乏しいが、これまでの調査において、至徳3年(1386)から永享元年(1429)にかけて再々建されて以降に集積された貴重な文物が数多く伝来していることがわかった。

その点数は約2万点にもなる。そして内容は、平安時代から近代に至る仏像・仏画をはじめ、仏具、典籍、聖教類、漢籍、古文書、書籍、世俗画、工芸品など多岐にわたっており、そのほとんどが初見資料であるため大変貴重なものであることは言うまでもない。さらに、境内には金堂(重要文化財・南北朝時代)、三重塔(重要文化財・室町時代)、山門(広島県重要文化財・室町時代)をはじめとする数々の堂塔や中・近世の石造物も豊富にある。

これまでに、平成13~15年度、16~18年度、続いて19~22年度において科学研究費補助金(基盤研究(C))を得て、現地調査・資料内容の電子データ化・データの公刊(『調査研究報告書』の刊行)を継続して進めてきた。

年間10日間前後の現地調査においては、資料の調書作成及び写真撮影、電子データ化に向けての原本照合と資料整理(保存管理措置)を随時行っている。また、日常的には大学内の文化財研究室において、資料調書(資料写真)の整理・電子データ化の準備・データの公刊に向けての作業などを行っている。

なお、資料内容の電子データ化は将来的なデータ公表に向けて、独自にデータ管理システムを構築している。

概ね、毎年1,000~1,500点の資料を現地調査し、平成22年度までに、14,155点の資料を調査し(資料カードの作成)、その内、5,660点の資料についてその内容を電子データ化、5,216点のデータを『調査研究報告書』により公刊した。

調査対象としている資料の中でも、寺院における修学活動のなかで生まれた教学・付

法・法儀に関わる聖教や、仏典を中心とする和書・漢籍などからなる典籍は、仏教学はもちろん国語学や国文学、日本史学等の諸学において注目されるものである。

## 2. 研究の目的

本調査研究は、西國寺が所蔵する文化財を悉皆調査し、西國寺における中世・近世の修学・付法活動について追究し、西國寺の歴史と文化の全貌を明らかにし、地域史・瀬戸内文化史の解明にもつなげることにある。この悉皆調査は、単に西國寺所蔵文化財の全てを明らかにするのみに留めるのではなく、それらを整理し、後世への保存継承の手立てを講じることまでも視野に入れ、文化財保護に資することも目的としている。

また、所蔵文化財全般の内容を明らかにすることは当然のこととして、密教学はもちろん国語学・国文学、日本史学等の諸学において注目される聖教類の内容を重点的に明らかにし、西國寺所蔵文化財の特質を考察することを目的とする。

## 3. 研究の方法

次のとおり、研究対象となる文化財についての分野を設定し、調査研究を進めた。

歴史資料：聖教、典籍 仏典を含む、中世文書、近世資料、近代資料、石造物 金石文

美術工芸品：仏像彫刻、仏教絵画、世俗画、仏具

立地環境：地形分析

年中行事等：宗教活動

これら各分野の調査研究内容と方法は次のとおりである。

〔歴史資料〕

\* 聖教・典籍については、約6千点の未調査資料の調書作成・写真撮影等を行う。

既に、現地調査を終えた資料については、資料内容の再確認調査を実施した上で、電子データ化とデータを『調査研究報告書』として刊行する。また、資料全体を通しての分析を進めていく。主として、

室町時代の西國寺の僧侶・法流・子院・行事等について、室町時代から江戸時代初期にかけての西國寺と高野山金剛峰寺との関わりについて、西國寺と密接な関わりのある安土桃山期の高野山僧朝意、江戸霊雲寺開山僧浄巖に関する資料の集積と分析、中央及び地域の他寺院との交流についてである。

\* 中世・近世・近代資料については、量的

には少ないものではあるが、殊に近世～近代にかけての資料はほとんどが初見資料である。資料の内容によっては釈文作成を行うとともに、それらの検討を通して、真言宗寺院としての西國寺の位置付け、広島藩における西國寺の位置付け、西國寺における宗教行事、西國寺と信徒などとの関係、教部省の国民教化政策と地方寺院との関係、大教宣布運動における地方寺院の活動等についての考察を進める。

- \* 石造物については、五輪塔・墓碑・石灯籠・石段などの実測・金石文の拓本などの調査を進めるとともに、近世以降の他のものについても同様の調査を進めていく。また、西國寺境内以外の関連する石造物の調査も行う。

#### 〔美術工芸品〕

- \* 仏像彫刻・仏教絵画については、それらに関わる銘文・記録等の集積を行い、これらをもとに、多種多様な仏教美術の個々の内容分析や美術史上の位置づけ、西國寺の寺歴との関わり等についての分析を行う。

#### 〔立地環境〕

- \* 現在の西國寺伽藍についてその立地環境を調査研究するとともに、本寺の所在する西國寺山の地形環境についても分析する。また、中世における西國寺の立地について環境歴史学的な観点から考察を行う。さらに、中国地方屈指の荘園である備後国大田荘の倉敷地になるなど、瀬戸内の重要な港湾都市としての尾道の中世における環境復原の作業を進める。

## 4. 研究成果

本研究期間（5年間）において研究成果は次のとおりである。

- ・ 調査資料総点数 3,002点
  - ・ 資料の電子データ化 4,782点
  - ・ 資料整理 5,199点
  - ・ 調査研究報告書掲載 5,496点
- 『西國寺調査研究報告書』第9号、2012、308頁（典籍1,243点掲載）

収録した典籍のほとんどは仏典であるが、漢籍や和書も多く見られる。それらは聖教と共に西國寺における修学活動の状況を明らかにしていく上でも貴重なデータとなる。西國寺においては近世の資料（古文書）が乏しいなか、その欠落部分を補う価値がある。

『西國寺調査研究報告書』第10号、2013、296頁（典籍1,274点掲載）  
第9号と同様。

『西國寺調査研究報告書』第11号、2014、278頁（典籍1,293点掲載）

第10号と同様。

『西國寺調査研究報告書』第12号、2015、227頁（聖教771点掲載）

収録した聖教は、寺院における修学活動のなかで生まれた教学・付法・法儀に関わる貴重な資料であり、仏教学はもちろん国語学や国文学、日本史学等の諸学において注目されているものであるとともに、西國寺においては、中世から近世にかけての資料（古文書）が乏しいなか、その欠落部分を補うに余りある価値がある。

『西國寺調査研究報告書』第13号、2016、200頁（聖教915点掲載）

第12号と同様。

## 5. 主な発表論文等

### 〔図書〕（計5件）

『西國寺調査研究報告書』第9号、2012、308頁（典籍1,243点掲載）徳島文理大学文学部文化財学科編集・発行

『西國寺調査研究報告書』第10号、2013、296頁（典籍1,274点掲載）徳島文理大学文学部文化財学科編集・発行

『西國寺調査研究報告書』第11号、2014、278頁（典籍1,293点掲載）徳島文理大学文学部文化財学科編集・発行

『西國寺調査研究報告書』第12号、2015、227頁（聖教771点掲載）徳島文理大学文学部文化財学科編集・発行

『西國寺調査研究報告書』第13号、2016、200頁（聖教915点掲載）徳島文理大学文学部文化財学科編集・発行

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

濱田 宣 (HAMADA AKIRA)  
徳島文理大学・文学部・教授  
研究者番号：20299332

### (2) 研究分担者

加藤 優 (KATOU MASARU)  
徳島文理大学・文学部・教授  
研究者番号：20309694  
平成23年度のみ

古田 昇 (FURUTA NOBORU)  
徳島文理大学・文学部・教授  
研究者番号：3029333

青木 毅 (AOKI TAKESI)  
徳島文理大学・文学部・准教授  
研究者番号：70258317

橋詰 茂 (HASHIZUME SHIGERU)  
徳島文理大学・文学部・教授  
研究者番号：40462072  
平成25年度から